

第1回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定委員会 議事録

日時：平成26年5月13日（火）10：00～12：00

場所：日田市役所7階 中会議室

1. 開会
2. 委嘱状交付

事務局

定刻となりましたので、只今から、「新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定委員会（以下策定委員会）」を開催させていただきます。策定委員会開始に先立ちまして、委嘱状交付を行います。時間の都合上、日田郡森林組合代表理事組合長 伊藤彌一郎氏を代表者として交付とさせていただきます。その他の皆様につきましては、お席に用意いたしました委嘱状にて、交付に代えさせていただきます。

3. 市長挨拶

事務局

それでは、策定委員会の開催にあたりまして原田市長よりご挨拶申し上げます。

〈市長挨拶〉

原田市長

お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。先ほど、委員各位に委嘱状をお渡しいたしました。これからの委員会どうかよろしく願いいたします。新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定委員会を設置いたしましたのは、本市の基幹産業である林業・木工業をいかに再生するかが喫緊の課題と考えたためであります。本来であれば、昨年にも早急に委員会を立ち上げるべきところでしたが、一昨年の北部九州豪雨災害の発生により時期が遅れました。災害の経験も生かしながら、林業振興に取り組んでいきたいと思っています。委員の皆様は、この林業・木材産業に深く関わっていらっしゃる方々でございます。私が就任して3年が経ちますが、木質バイオマス発電所や加工協同組合の設置など、新たな動きが出てきています。山の地力を高めながら、域内の材を広く活用していただけるような提案をいただきたいと思います。委員の皆様どうかよろしく願いいたします。

事務局

市長は他の公務のため退席させていただきます。

4. 委員会委員紹介 省略

5. 委員長、副委員長選出

事務局

委員会設置要項第5条の規定に基づき、委員長・副委員長の選出を互選によりお願いいたします。もし、特にご提案がないようでしたら、委員長・副委員長を事務局より提案してもよろしいでしょうか。

委員

異議なし

事務局

委員長を城戸委員、副委員長を長委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

委員

異議なし（拍手にて承認）

事務局

承認いただきましたので、城戸委員は委員長席へご着席ください。続きまして、城戸委員長、長副委員長よりご挨拶いただきます。

城戸委員長

委員長に就任いたしました城戸と申します。私の専門は地域産業で、自動車や半導体産業、環境産業を中心に関わってきましたので第1次産業はあまり勉強ができていない状態でした。しかし、3年前に九州経済連合会の次世代林業研究会でアクションプランを作成するにあたって、経営やマーケット的な視点を盛り込みたいということで、私がプロジェクトのリーダーを担っていました。また、昨年7月に日田で県際サミットが開催され、農林水産大臣や林野庁長官にも来ていただき、日田ならびに九州の林業・木材産業についてのディスカッションをする場でコーディネーターもさせていただきました。さらに、この機会をもってさらに勉強させていただき、日田の林業・木材産業の発展のためにお役に立てればと考えています。林業、木材産業はきちんと戦略を持ってすれば、可能性が十分にあるとワクワクしているところです。皆様の真摯な議論の中で良いビジョンができればと

思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、長副委員長お願いいたします。

長副委員長

20年前に新日田林業構想が策定されました。当時私も策定委員会に参加していました。当時はちょうど平成3年の台風災害の復旧が進められている時で、構想の内容について非常に紛糾したのを覚えています。当時の委員の先生方も揉めていたことを懐かしく思い出しました。どうぞよろしくお願いいたします。

6. 議題

(1) ビジョン策定にあたって

事務局

要項第6条に従いまして、これから先は城戸委員長に進行をお願いいたします。

城戸委員長

まず、事務局より資料の説明をお願いいたします。

事務局 資料説明省略

城戸委員長

ただいまの事務局に説明につきまして、何かご質問・ご意見があればお願いします。

委員A

今回のビジョン策定では、委員会と専門部会がそれぞれ分かれています。専門部会から上がってきた様々な現場に即した意見をどのようにまとめるのか、策定委員会の出された意見をどのようにビジョンに入れ込むのか難しいと思います。

事務局

資料10ページにスケジュールを示していますが、今回の委員会後、28日に第1回合同部会が開催されます。部会でもビジョン策定の意義などを説明し、同じように意見を伺う予定です。それと平行して関係者への聞き取り調査を実施する予定です。部会は7月に第2回を開催し、さらに現場の課題を抽出した上で今後進むべき方向性などを議論していただきます。その後、8月に第2回委員会を開催する予定ですので、そこでの意見を委員会で報

告いたします。そのようにして、委員会と部会の運営していく予定です。

城戸委員長

今の話しは、ボトムアップかトップダウンかという話しだと思います。従来、ビジョンの策定は、部会からボトムアップで上がってきた意見を、最終的に策定委員会が承認するという形だったかと思います。しかし、これだけ変化の多い状況の中では、策定委員会の中である方向性を大所高所から出した上で、部会で議論してもらおうというトップダウン方式も必要だというご意見だったかと思います。私もその通りだと思いますし、両方やる必要があると思います。第1回部会の委員会がボトムアップで第2回委員会に上がって来ますが、そこで我々がしっかり議論して、ビジョンの基本理念については、委員会が大所高所からトップダウンで部会に返していくという形になるのではないかと思います。委員の皆様いかがでしょうか。

委員

異議なし

城戸委員長

他に何かございますか。

委員B

本年度中にビジョンを策定する流れは理解しましたが、具体的に来年度以降の施策に反映させるためには、本年度中に予算などに反映させることが必要かと思いますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

事務局

今回のビジョンの位置づけは、これからの林業・木材産業の進むべき方向を示す、指針を定めていただきたいという性格のものでございます。具体的な来年度からの事業のアクションプランや予算編成のもとになるものと想定しています。ビジョンの中で具体的な事業内容を1つ1つ示すようなものではないと考えております。その後の進め方につきましては、市の執行部の中で予算編成を検討し、企画当局との協議の中で事業展開という流れになっていくと思います。

城戸委員長

ビジョンについては、しっかり今年度かけて考える必要がありますが、産業自体は毎日刻々と動いているので、少しでもできることから事業を実施したいというのは当然の流れだと思います。そのような意味で、10ページのスケジュールの中で6月に骨子案提示とあ

りますが、これは具体的にどのようなイメージを考えていますか。

事務局

今後、聞き取り調査やその他調査を進めるところですが、例えば、山づくりにおいては、施業の集約化や林業を担う林業事業者の育成などの施策など、部門ごとに現状と課題を整理し、施策の方向性を示したものを骨子案とし、皆様に議論していただきたいと思います。

城戸委員長

県際サミットや策定準備会などで、ある程度論点が出ているかと思います。その論点をベースに今回議論した上で、事務局がそれをまとめる形で骨子案を作成し、次の委員会や部会に上げてくるという流れだと思います。その中で、緊急を要する内容については、急ぎ周知していくというように私は理解しています。できることは早めを実施していく必要があります。

委員C

平成 25 年度から、日田市の新しい森林整備計画が立てられています。路網の整備や山の整備などについては、すでにそこに取り込まれていると考えていますが、それを参考にするとということでしょうか。

事務局

地域森林計画はすでに県、国で認定いただいている計画で、森林経営者の皆様にも、それを基に森林経営計画を策定してもらっていますので、そちらを大幅に変更することはございません。山づくりに関しては、日田市森林整備計画、大分県の森林（もり）づくりビジョンがつくられています。ですので、今回ビジョンの中で大きくクローズアップされるのは、木材生産など出口対策の分野で、日田材の需要対策をいかに進め、それを山に返していくかを中心に皆様にはご議論いただきたいと思っています。

委員D

資料 9 ページの木材産業部会に建築士会から 1 名加えてもらいたい。

事務局

確定メンバーではございませんので、ご推薦お願いします。

城戸委員長

部会はまだ、確定ではありませんので、その他ご推薦メンバーがいらっしゃいましたら、事務局まで連絡をお願いいたします。

委員 E

先ほどの森林計画の資料について、委員にも配布いただけないでしょうか。既に計画が進められているのであれば、それ以外のところについて議論したいと思います。

城戸委員長

事務局は配布をお願いします。

- (2) 日田市の新たな森林・林業・木材産業にむけて
- (3) 日田市の森林・林業・木材産業の課題
- (4) 現状分析と課題抽出に向けた調査

城戸委員長

九州経済調査協会より議題（2）～（4）の説明をお願いします。

九州経済調査協会 資料説明省略

城戸委員長

ここからはフリートークといたします。事務局には骨子案を早めにまとめてもらい、第2回委員会では、基本理念を議論できればと思います。事務局から示された課題の中で、大切な物や抜け落ちているものをご指摘いただければと思います。できれば、全員にお話いただければと思います。

委員 F

今の説明に資料にもある通り、日田市林業の大きな課題は小規模森林所有者が多すぎるということです。1ha未滿の所有者は、放置している方がほとんどで、森林経営という概念が欠けています。森林組合で作業を行う上でも、そのような所有者にもその都度了解を得なければいけないので、作業効率が非常に悪い。小規模森林所有者の問題は、ビジョンを策定する上でも壁になると考えています。

委員 G

木材流通に関しては、長年日田の歴史の中でできたものを、現状の変化の中で変革をもたらす良い面と、副作用をどのように見ていくのかを考えていかなければいけないと思います。木材産業については資料に記載されている通りですが、実際に我々のような事業者が、どう具体的に動いていくのかということがポイントになります。日田の木材産業には、弱み強みがあり、その弱みを全て強みに変えていくのか、強いところをより強くしてい

か、そのあたりのヒントになるようなビジョンになって欲しいと思っています。これからの課題の1つは、丸太が余っている、安いなどを言われていますが、基本的には木材資源の争奪戦という局面に既に入っていると思います。日田の森林は貴重な資源となるので、それをどのように上手い具合使っていくのが重要になると思います。

城戸委員長

戦略的な話しは、皆さん結構分かっていると思いますが、どのような「戦術」を取るかということについては、場所によって異なるので難しいです。この「戦術」をどうするかで議論が紛糾してしまうと思います。この策定委員会で日田の強みに関する共通認識ができればと考えています。

委員 H

日田がこれだけ木材の産地で有名であるということは、丸太の集散地であるということが大事だと思います。昔から日田に持ってきて日田から出ていっていた訳ですが、日田は近年それが顕著になってきていると思います。周辺部の製材工場が減少する中で、日田・浮羽地区にこれだけの製材工場が残っているのは、全国でも非常にめずらしいことです。それだけの原木が集まってくる要素を持っているということだと思います。集荷地域をみると日田管内は半分以下もないと思います。それ以外の県内や福岡からの集荷であり、輸入（移入）されたものがほとんどということです。輸入された材を使って、輸出しているということです。そのようなことで、集散地になっていますので、それを利用しない手はないと思います。特に、安くてかさばるものですので、物流対策としては、日田は北部九州の中心にあるということで、行政も一緒になって考えて欲しいと思います。福岡県は皆伐に対して、県が補助金を出しています。その際、県の原木市場や製材工場に出荷することが条件になっています。熊本県にも同様の施策がありますが、日田にはありません。業界と行政の結びつきが大切ではないかと考えます。私どもは、山の方、製材所の方とも連携がございしますが、先ほども課題として出されましたが、小規模所有者が非常に多いことが問題になってくると思います。日田には森林伐採の作業員が結構いますが、日田以外で仕事をする方が非常に多いわけです。日田に仕事があれば、遠くではなく日田でするので、日田市内での伐採量をある程度確保するということが大切だと思います。

城戸委員長

強みとしての、北部九州における集散地ということでした。ただ、せつかくなら入ってきたものに付加価値をつけて移動させないともったいと思います。

委員 I

このようなビジョンはある程度中長期的な視点で方向性を考えるということだと思います。

す。ビジョンは、我々の一枚岩ではない業界のある種の努力目標でもあります。その点を勘案して作っていただきたい。資料の課題の中で付け加えたいのは、市民目線の論点です。森から市民が遠ざかっていると思います。林業従事者は減っている中で、山の危機管理を誰がするのかという視点が抜けているのではないかということをおもいました。

城戸委員長

外にいる一般市民としての感覚で言うと、市民目線というのは非常に大切に、事務局の資料にある「木育」のところにも、そのような視点が必要かと思います。日田は観光のイメージが非常に強いですが、観光と林業となんとなく結びついていないということを感じます。このようなビジョンをつくる際に重要なことは「V・I・P」と言われます。すなわち、「ビジョン、イメージ、プロジェクト」です。ビジョンをつくと、人に伝えるためのいわゆる市民目線のイメージが必要になります。それを実現するためには、「戦術」がいります。それは「プロジェクト」になると思います。プロジェクトを通してビジョンが達成されるということです。難しいとは思いますが、いくつかプロジェクトが生まれればと思います。例えば、「森林・林業・木材産業成長のための 10 のプロジェクト」のような形がつかればと思っています。

委員 J

森林経営者として情けないと思うのは、自分の山の木がどこでどのように使われているのか分からないということです。流通を簡略化し、直送なども手がけていますが分からないのです。これが、林業の決定的な問題ではないかと思うのです。林業がどのような産業になれば生き残っていけるのかを考えています。今回の資料で「再クラスター化」の図がでてきましたが、このような取り組みには非常に期待しています。最終的にどのように利用されるのか、そのシステムが見えるということです。観光との接点の問題という話がありましたが、観光地で売っているものと森林が結びついていません。日田の森からこのようなものが出てきて、このように利用されて、このようなものが出来上がったというものではありません。木がいくら地域にあったとしても観光に結びついていません。一つは、売るとしたら木と森林だと思わないので、それについては、森林の中に市民がもっと入れるようにすべきです。山側としては、いかにコストダウンするかが課題です。道路建設が大切だと思います。生産林と環境林の区分という話がありましたが、どこで分けるのか？は、道路が建設できるかできないかが一つの目安になると思います。さらに、大きな道路が入ったとしたら、これまで通りの造林方法で良いのかということが課題になります。年齢構成の平準化には皆伐が必要ですが、皆伐のあとは「何をどのように植えるか」が非常に重要になります。新しい林業の課題になると思います。出口対策に向けて、我々山側はいかに供給して、山を作っていくかということになります。

城戸委員長

今の話しは、サプライチェーンマネジメントや 6 次産業化の話しです。言うのは簡単ですが、この業界で実現するのは相当に難しいとは思いますが、これが、日田でできればすばらしいと思います。思いつきの話しで恐縮ですが、「6 次産業化」と良く言われますが、バイオマス利用は環境産業で、エネルギー利用になります。何か 1 度マテリアル利用すると 6 次産業ですが、さらに環境産業でもう一度使うことになりますので「9 次産業化」になるのではないかと思います。また、そこまで踏み込んだ提案ができると面白いのではないのでしょうか。

委員 K

4～5 年前から森林のナショナルトラストを作るための議論を行ってきました。日田、久留米、九重、大川の市長を集めて色々議論をする中で、森林トラストの仕組みを取り入れて、筑後川上流の森林を流域全体でつくろうという話しがありました。それに向けて、久留米市が音頭を取る形で、3 年かけて筑後川水源保全計画が策定され、今も議論が続けられています。そこでの森づくりは、林業とは随分方向が違っているわけです。流域住民が要望しているのは、山の保水力であるとか壊れない山など、環境問題から山を健康にして欲しいということです。毎年、筑後川フェスティバルでは市長が集まって議論をしてもらっています。保全計画では、水の源である森林をしっかりと守るべきだという結論ができています。北部九州豪雨が発生し、その復旧にあたっていますが、拡大造林の中で水際まで根の浅いスギを植え過ぎてしまったため、根から倒れて橋桁にあたったなどの被害があったわけです。林業をやってきたものは、これまでの人工林一辺倒の森づくりを反省し、どのような森づくりをすれば元気な山になるか、議論して新たな森をつくり直していく必要があると思います。溪流沿いの樹種の見直しあるいは造林方法の見直しを行うなかで、あらたな事業が生まれてくるのではないかと思います。そのような資料も作っていますので、機会があれば報告をさせていただきたいと思っています。

城戸委員長

健康な森づくりの視点は非常に重要でございますので、事務局と相談して機会を設けるということになるかと思います。

委員 L

家具業界につきましては、資料にございますように、事業所や従業者は半減していますが、地元産のスギ・ヒノキの針葉樹に関しましては、以前とは比較にならないほど利用が進んでいますし、それらの家具製造について、日田は結構進んでいるのではないかと思います。他の地域と比べると、生き残っていると思います。KD材をかなり活用していますので、さらに研究していただければ、さらに高付加価値な製品を提供できるのではない

かと思っています。

城戸委員長

私が驚いたことの1つは、日田では国産材を利用した家具の製造がしっかりやられているということでした。日田の家具は1つの強みではないかと思えますし、プロジェクトの1つとして何か出せればと思います。

委員M

今、建築士会では日田の家のモデルをつくりたいということで話し合いをしています。近年、2×4など外部のハウスメーカーなどがかなり入っていて、木材が見えない家づくりが進んでいます。私どもは木材がもっと見えるお手伝いがしたいということです。以前、景観のよい住宅への表彰制度などがあつたかと思いますが、できれば木材を使った家について、モデルになるようなものがあれば表彰するなど、木造をPRできるような事が、木材利用に貢献するのではないかと思います。日田は木材のまちでありながら、日田駅を降りても木造の家が見あたらないと言われることもあります。日田の本来の価値を高めていくためには、例えば、三隈川沿い側にモデルになるような住宅を建てるなど考えていく必要があるかと思っています。

城戸委員長

できる、できないかは別として、インパクトがあるのは事務局の資料説明にもありましたが、三隈川沿いの温泉旅館がCLTになって連なっているなどかなと思えました。

委員N

バイオマス発電は、山林未利用材を利活用しています。発電所が稼働してから1年経っていませんが、効果についてはきちんと検証したいと思っています。平成19年から協議会を作っています。そこでは、毎年、雇用や原木の取扱量、高性能林業機械の導入などの変化を調べています。発電所の見学者が月に200~300人来ていますので、最も効果が現れているのは、日田への集客だと思います。見学に来られる方には、できる限り日田の旅館や飲食店を利用してもらおうようお願いしています。一つのプロジェクトが動き出し、林業だけでなく、他産業へのどのような効果があるのか、そのデータ取りも行っています。残材を出すのはご苦労が多いと思います。関心のない小規模山林所有者をまとめて材を出すのは大変です。建築用材、残材もお金になり、それが山側の価値になればと思っています。観光などもタイアップしていきたいと思っています。

城戸委員長

今の話しは、資料冒頭にありました「再クラスター化」の話しにつながると思います。

クラスター化とは、地域の中で産業連鎖が非常にうまく起こるということです。環境産業のバイオマス発電を行うことで、観光にも良い影響が出ているなどの産業連鎖です。日田にはそのような産業連鎖が沢山あったと思います。例えば、木材を買い付けに来た人が、市内に泊まって鵜飼いを楽しむなどがあったかだと思います。事務局での話しはそのようなことを再構築するというものだと思います。ビジョンの中では、産業連鎖をいかに起こしていくかという視点が入ればいいかなと思います。

ちょっと前に「3K産業」という言葉が流行りました。3Kとは「環境、観光、教育」ですが、日田には日田林工も含めると3Kが揃っていると思いますので、この再クラスター化の参考にしてもらえればと思います。

委員O

資料にありますように、日田市の総生産から見ると、林業・木材産業ウエイトが下がって随分と経ちますが、改めて日田の林業・木材産業をみると、2,290億中、林業が18億ということです。景気対策から考えれば、3次産業に投資した方が効果が大きいという構成になっています。しかし、日田の経済を将来どうするかという議論の中で林業の存在は大きいと考えます。今年の10月に全国の商工会議所の大会が大分であります、その翌日の観光に日田コースを設定していますが、林業を主体とした産業観光を考えています。日田市の人口が減少していく中で、生産年齢人口も減っていきます。限られた人口の中で、果たして林業に従事してもらえるのかを考えると、経済効果だけではなく、森林そのものに対して価値を見いだしていくことが必要ではないかと考えています。

城戸委員長

日田全体の中で、林業・木材産業の位置づけはどうなっているかを簡単で良いので、データで確認されるといいかと思います。また、日田で人口減少がどのくらい起こるのか、九経調には、労働力人口も含めて、2030年、40年の日田の人口推移を示してもらいたいと思います。その際、林業に労働力をきちんと供給できるだけの労働力人口が確保できているのかなど示して欲しいと思います。

委員P

国有林を管理していますが、ほとんど間伐で年間1万m³の原木を出しています。今後については、小面積皆伐の実施を検討しなければいけないと思っていますが、フォワーダーなどの高性能林業機械の導入を進めて、低コストで伐採搬出できるような方向ができつつあるのではないかと考えています。皆伐後は、コンテナ苗が普及しています。国有林でも植え付けています。コンテナ苗は、下刈りの省力化や、植え付け時期を選ばないなどメリットがありますので、試験的に取り組んでいます。国有林は、地主が1名と言いますか、計画に沿った施業が可能ですが、民有林では小規模な森林所有者が沢山いらっしゃいます

ので、切って植えるという合意形成がなかなか難しいと思います。また、KD材、集成材の生産にあたっては設備投資の話しが出てくると思います。新しい事業を立ち上げるには、設備投資が必須となりますので、視点の中に入れて欲しいと思います。

城戸委員長

設備投資の話しは重要だと思います。また、小規模所有者、不在村所有者の課題は非常に大きいことを再確認したのではないかと思います。

委員Q

冒頭事務局から説明がありましたように、山づくりに関しては森林計画があるので、主な議論は林業、木材産業の産業がメインになるというお話がありましたが、私もそのような感じがいたしております。産業関係になると、民間事業者の方々がまずは主役でございます。事業者の主体性をどのように引き出して行くのか、行政としてどのように側面支援をしていくのがポイントになると思います。日田は歴史があり、林業、木材産業それぞれにプレイヤーが沢山いますが、沢山いるがゆえにまとまりにくいという面もあると思います。全部まとまるというのは不可能ですので、まとまる部分だけまとめて、動けるところから動いていくというのが良いと思っています。県のサポートを考えると、補助金を投入するというのがあります。過去3～4年で林業・木材産業は補助金でおなかが一杯になっている状態ではないかと思います。今後は、補助金で導入した人材や機械をどう使うかという仕組みづくりを考えていければと思います。

城戸委員長

普通は経営者という言葉を使うが、1次産業では事業者という言葉を使っています。日田の林業・木材産業においては、持っている方も沢山いらっしゃると思いますが、経営者マインドが必要になってくるかと思っています。業界の中に経営者マインドが出てくると、新たな水平線が見えてくるのかなと思います。

委員R

森林・林業・木材産業の振興ビジョンは、日田だけじゃなく全国で考えていかなければならないことだと思います。今回、ビジョン策定に係る予算を審議する中で、委員会の回数が少ないのではないかと意見もありました。その分、中身のある十分な議論を尽くし、回数に関係なく良いビジョンが策定できるように頑張りたいと思います。

委員S

現在、前林業構想をもとに施策が実施されていますが、新ビジョンを策定するにあたっては、前構想の検証が必要ではないかと思っています。構想に基づいて林道を造ったり、

災害後に広葉樹を相当を植えたような記憶があります。当時、どのような樹種を植えれば良いかわからなかったため、様々な樹種を植えたと聞いています。実績がかなり出てきていると思いますので、それを検証することによって、広葉樹の植え方などについて、ビジョンの方向が出るのではないかと思います。事務局の方から提案がありましたが、これまで山を育てることに主眼を置いていましたが、今後は利用に目を向ける必要があるかと思っています。県外出荷や海外出荷にも販路を広げていますが、筑後川流域という視点で、流域で育った木を流域で使うということを視野に入れていく必要があるかと思っています。福岡県では、1年間で1万2千戸建てられています。木造住宅1棟につき約25m³利用されますが、30万m³の木材が使われる計算になります。日田市では、30万m³が県外に出てきていると考えれば、今後、それがさらに増えて行くことが日田林業の振興に繋がるとかと思っています。大川まで含め、流域で材を使うということをビジョンの中で示していきたいと思っています。

城戸委員長

筑後川流域で水を使っているところまで考えると福岡市まで入ります。福岡市の人に日田のスギ・ヒノキを使ってもらおうという発想は極めて重要ではないかと思っています。前ビジョンの検証はおろそかになりがちなので、今回は、事務局でその検証をしっかりとさせていただきたいと思っています。5～7月に市内関係者ヒアリングを実施するとのことですが、それをしっかりとやって欲しいと思っています。委員ヒアリングをしっかりと実施し、それを踏まえた骨子案を提示していただき、共通認識を共有したいと思っています。また、ビジョンができる前でも、できることについては、順次提案・実行していただければと思います。予定時間となりましたので、議論を終了したいと思っています。

事務局

長時間のご議論ありがとうございました。次回委員会は8月5日（火）13:30～で開催したいと思います。よろしくお願いいたします。

城戸委員長

これを持ちまして第1回委員会を終了したいと思っています。ありがとうございました。